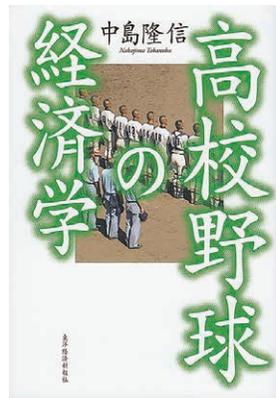


慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

経済の視点で解き明かす 高校野球人気の秘密

『高校野球の経済学』

中島隆信（商学部教授）著
東洋経済新報社／1620円（2016年6月）



昨年100周年を迎えた夏の甲子園、全国高等学校野球選手権大会は、国体（国民体育大会）のような官製イベントではない。主催者、高校生や学校関係者、試合を楽しみたい人に支えられてきた。本書は、高校スポーツの一大会が長きにわたって続いてきた理由を、効率性と合理性に基づく経済学的思考法を用いて説明している。「息子が高校の野球部に所属し、ゼミに体育会野球部員が入ったことが執筆のきっかけ」と語る著者の中島教授は、実際に甲子園で試合を観戦するなど精力的に取材を行った。気軽に読むうちに、「高校生らしさ“溢れる全力プレー”の魅力や高校野球の人気の秘密がわかる。

教職員執筆の最新刊

●松沢裕作（経済学部准教授）著

『自由民権運動―（デモクラシー）の夢と挫折』岩波新書／886円（2016年6月）

●細谷雄一（法学部教授）著

『安保論争―ちくま新書／950円（2016年7月）

●玉村雅敏（総合政策学部教授）編著、小島敏明（政策・メディア研究科特任教授）、横田浩一（同）ほか著

『ソーシャルパワーの時代―「つながりのチカラ」が革新する企業と地域の価値共創（CSV）戦略』産学社／2160円（2016年7月）

●田中泉史（文学部助教）ほか著

『生物学の哲学入門』勁草書房／2592円（2016年8月）

●奥村昭博（名誉教授）ほか編著

『日本のファミリビジネス』中央経済社／2592円（2016年8月）

●鈴木晃仁（経済学部教授）、北中淳子（文学部教授）編

『精神医学の歴史と人類学』東京大学出版会／5184円（2016年9月）

慶應義塾の一冊

『沈黙』をめぐる短篇集』

遠藤周作著、加藤宗哉編
慶應義塾大学出版会／3240円
（2016年6月）



遠藤周作の『沈黙』は、戦後文学屈指の名作。17世紀の隠れキリシタンとポルトガル人司祭の心の叫びを描き、海外での評価も極めて高い。本書は、『沈黙』刊行（1966年）の前後に発表された『沈黙』につながるテーマを持つ小品を、「元」三田文学」編集長で遠藤と親交が深かった加藤宗哉が編んだ短篇集。なおテーマが異なる最後の一篇「アフリカの体臭」は、1954年に別の名前で発表した若書きの幻の作品。単行本初収録と思われる。